

会 議 録 (要点筆記)

- 1 会議名 令和2年度 第4回瑞穂町地域農政推進協議会
- 2 日 時 令和2年10月27日(火) 午後3時から午後4時50分
- 3 場 所 瑞穂町役場 1階ホール
- 4 出席者 上野 勝、臼井 順央、細渕 浩昌、中垣 浩光、桐原 伸彦、
新藤 正巳、久保田 聡、角田 由理子、久保田 晴利、
青木 一幸、近藤 剛、井垣 貴洋、
- 5 欠席者 榎本 勝昭、鳥海 雅司、中野 真弓
- 6 傍聴者 4名
- 7 議 題 (1) 瑞穂町農業振興計画(案)について
(2) その他
- 8 配布資料 資料1 第2章 瑞穂町農業振興の基本方向 第3章 施策の展開
- 9 会議内容

(1) 瑞穂町農業振興計画(案)について

(事務局説明) 資料1について説明。

将来像は、「みらいへつなぐ みんなで育てる みずほの農業」とした。

「みらいへつなぐ」 10年後、20年後につなげる農業

「みんなで育てる」 認定農業者を中核に、町民が支え、みんなで育てる農業

「みずほの農業」 このような農業をみずほの農業として育成

基本方針は「生産する」「未来へつなげる」「地域と共存する」の3点、この方針のもとに施策の体系化している。

農業経営の目標を、東京農業の経営モデルから作成している。施策の展開では、成果指標、施策内容、各主体の役割を記述している。

(質疑等・意見交換)

○細渕委員

基本方針など分かるが、一つずつ検討したい。

○上野会長

町が以前に策定した農業ビジョンでは、町の現状分析、課題があって、その後に施策が入っている。アンケートの結果もふまえた整理が必要だと思う。

(事務局)

現状と課題は、町民アンケート、座談会の結果などを踏まえつつ、施策を取りまとめさせていただいた。現状と課題をしっかりと形でお示しできなかったが、これまでの意見等を踏まえつつ作成している。現状と課題の部分についても、早い段階でお示ししたい。

○上野会長

課題などを示して将来像をどうお考えか、と聞くのがこの会だと思う。(経営モデルについては) 農業所得だけでなく、売り上げがどのくらいあるのかを見ていく必要がある。

○久保田(晴) 委員

(経営モデルについて) 300万円の目標も示されているが、それ以下の農家もある。どこを対象に計画を進めていくのか。目標が現状とずれていないか。

(事務局)

農業経営の目標は、あくまで東京農業の経営モデルを例示している。各農家によって考えている経営モデルや規模は異なると思う。例示ということで考えている。意欲のある方は300万円でこういうモデルを目指してほしい、と例示している。ここまで載せる必要があるか検討したい。

○久保田(晴) 委員

前もって資料をいただければ、もう少し内容を理解できると思う。

(事務局)

事前にお示しできなかつたのは申し訳なかつた。次回以降、早めに資料をお出ししたい。現状分析も含めて、郵送させていただく。

事務局では、第1章、第2章に関係して、第2回で農地所有者へのアンケート結果、第3回で町民アンケートと懇談会の結果をお示しした。整理して計画書に掲載していく。皆さんで議論していただくことが大切な事なので、ご意見等いただければと思う。

○細渕委員

(協議会のメンバーには) 農業に携わっていない人がいない。そういう人の意見を聞いてみたいと思う。いいアイデアを出していただけるのではないかな。役場の若い職員とか、町外の方とか、そういう方の意見を伺いたい。

○上野会長

前の検討を行ったときは、商工会の女性部長さんも入っていたと思うが、今回はこういう形になっている。

○角田委員

(示された施策には) 町民アンケートや懇談会の結果なども入っていると思う。資料を見ると、検討するという書き方が多い。どこを目指そうとしているのか分からない。ボリューム感としてももう少し分かりやすいものになるのか、書き込みがされるのか、10年間も検討を待ってられない。スケジュール感はどうなるか。

(事務局)

今後のスケジュールについて、第5回の協議会は11月下旬を予定している。そこでは、案ということで全体をお示しし、施策内容も具体的に、内容を膨らま

せて、検討をお願いしたいと考えている。

その後、議会への説明、パブリックコメントを実施し、来年2月頃にまとめた案について協議会においてご検討いただきたい。

施策内容のスケジュール感については、示せるものについては提示させていただく。

○角田委員

2月の協議会は、パブリックコメントが終わって、最終確認ということか。12月には素案として取りまとめ、1月にパブリックコメントを実施するイメージか。

(事務局)

その通り。次回には、パブリックコメントや関係機関に出す前の資料の検討を予定している。会議前に、お示ししたい。

○上野会長

直売所は機能充実とあるが、現状を修復する程度を想定しているのか。直売所は建て直して移転したり、飲食、加工も含めていくのではないか。施策のスケジュールがないと、検討する、充実する、とっていて10年が過ぎてしまう。町にお金がないということで、絵に描いた餅になってしまうのではないか。できることを着実にやっていかなければ。農業委員会も視察に行ってもその成果が十分に生かされていない。

農地5反以上でないと売買できないが、自治体によっては3反で出来るところもある。中には1反から農家として認めるという自治体もある。農地を流動化して都市生活者が農業を継ぐような環境をつくっている例もある。瑞穂の農業を活かす手段を実施していかないと、何もできないで終わってしまう。

(事務局)

施策内容が抽象的であることから、具体的なところが分かるよう、施策内容の中身、スケジュールをお示ししたい。

○久保田（聡）委員

ここまでつくるもの大変だったと思うが、直売所に大型冷蔵庫を設置して貯蔵できるようにするとか、もう少し具体的な記述は難しいか。地域と共存することだが、10年で町民が農業を理解してくれているか。(成果指標の)目標は町民農園の区画数だけでなく検討してほしい。

(事務局)

いいことは書いてあるが具体的にどういうことか分かりにくい、ということで反省している。成果指標はあるが、見えていないものもあるので検討させていただく。また、委員の皆さんにも持ち帰って検討していただきたい。

また、町だけで制度をつくるのではなく、農業者や消費者がどのように考えるかご意見を伺いながら検討していきたい。

○上野会長

農ウオーク、観光型の農業、しいたけ狩り、農協の芋ほり・落花生ほりなど、農ウオークを兼ねて摘み取りの体験をするなど、町内を巡回して実施するなどのアイデアはある。市町村の垣根を越えて、生産能力のある瑞穂町が町外へ出て行って、福生や羽村に出荷できる体制をつくる。農協もブルーベリーを始めるらしいが、ブルーベリーの摘み取りを行っている農家もあるので、組織化していくとか、都民を対象にした観光型農業の普及の余地は十分にある。お金をかけないで、工夫次第で出来ることはある。(拠点となる)センターをどこに置くかはあるが、(運営については)農協がよいのではないかな。

○新藤委員

瑞穂で多く生産物が出来て、農協管内で出荷ができればよいと思うが、実現しなかったという経緯がある。にしたま管内ですべてのところに出荷できるようにしたほうがよい。給食の問題も含めて。

○角田委員

取り組んできた成果をふまえ、今後の方向としてどこを変えようとしているのか分かるようにご説明いただければと思う。具体の施策が見えてきて、やっていけそうだと思うようになると思う。農振地域をどうするかなど、テーマは分けてあるので、それぞれに設けていただきたい。

○臼井委員

直売所の売上が下がっているとのことだが、その原因は何か。

(事務局)

直売所の売上は、今年度はコロナの影響があるのか、来客者数が多く、売り上げも増えているが、これまで以上に上げるためには上質なものを出すようにするとか、売り場を分かりやすくするとか、そのような対策が必要である。来客者数が減っているのは物が少ないときもあるためと考えている。

○臼井委員

(現在の直売所の)狭い敷地、駐車場で直売所を運営していくのは難しいと思う。

(事務局)

機能として、駐車場が狭いとか、イートインができるスペースが必要だとか、そのようなお話はいただいている。

○上野会長

商工会で道の駅構想をつくったことがあるが、町から赤字になることや運営主体が不明なことなどの指摘があり、実現しなかった。町では道の駅という考えはないと思う。瑞穂の直売所が近隣では一番古い直売所になってしまう。あきる野のファーマーズセンターは建て替え計画を進めている。瑞穂の直売所の建て替えは必須だと思う。敷地も狭く、魅力ある直売所にしていく必要がある。品ぞろえ、

運営方法、開店時間なども検討課題である。(直売所の運営は)民間委託してでも厳しい運営で、お客さんの視点で運営していく、そういうやり方をすべき時代であり、小手先の対応だけではだめだと思う。大型店に対抗していくのは難しい。機能の充実だけでなく、根本的にやらないと経営として成り立たないと思う。赤字が続いている中で、あと何年持つか。廃止すると、小さい農家は困ってしまう。

○久保田(晴)委員

直売所の建て替えを施策として掲げたほうがよいのか、10年の中で進めていくということを思い切って載せるか。小さい農家の出荷先は直売所も多い。消費者の利用も多く、瑞穂の物を瑞穂の人に食べてもらうためには、大事なことだと思う。農家を維持していくためにも必要なことだと思う。300万円未満の農家が農業や農地を支えているので、いい直売所ができればと思う。

○近藤委員

直売所の建て替えはここで決断しないといけない。就農して14年だが、14年前から建替えや道の駅の話があった。期待しては裏切られての繰り返しだった。新規就農者が入ってきて外に出て行ってしまうので、何かしらやらないと若い農業者から見切りをつけられてしまう。

農業経営の目標は、細かく分けなくて瑞穂町全体の農業産出額でとらえてもよいのでは。週末農家の方から専業農家まで、いろいろな農家が瑞穂の農業を維持しているので全体でとらえるのがよいと思う。認定農業者が増えている自治体でも農業産出額が減って農業が衰退しているまちがたくさんある。認定農業者の数よりも農業産出額、いかに付加価値を生み出しているかということを経営指標で表した方がよいと思う。

資料を見て、内容が充実していると思う。アンケートや座談会の課題を聞いて、すべて網羅していると思うので、優先順位を決めて取り組んでいけばよいと思う。具体的にしてほしい。

○上野会長

直売所を利用している農家は70代が多い。会員は、町に負担をかけないでやっており、直売所にはそういう価値もある。けやき館の何分の1かの予算で、国や都の支援も活用すれば安く建設できる。農振地域の地価は安い。莫大な予算を投入しなくても、シンボリックなものができると思う。

○井垣委員

座談会の時、新規就農者でこれまで10年間取り組んできて、瑞穂町は都内でも一番新規就農者が多い町だと思うので、それはすごいことだと思う。その辺を評価して今後10年の数値目標を入れていただいた。どのくらい遊休農地が出てそれに対して入る人がどのくらいいるか。また、地域に定着して農業を継続できる支援をお願いしたい。

現状、瑞穂町では農業の取組が盛んだと思う。計画を策定するときに、改めて

PRも兼ねて広く町民の方に農業を知ってもらえるような冊子にしてほしい。東京ネオファーマーズというグループがあり、個人を紹介したページであるが、URLを紹介していただければと思う。

○久保田（聡）委員

今回の資料としてお願いしたいのは、肝となるのは施策の展開だと思うが、唐突にでてきていることから、現状、課題を含めた資料としていただきたい。膨大な資料になるので、3つの柱レベルでもよいので、A3判1枚の概要を作成していただきたい。理解しやすくなると思う。

重点プロジェクトが最優先になると思うので、合わせてお示しいただきたい。

○桐原委員

直売所の様子もだんだんわかってきたところだが、質が落ちた、値段が安いということに、運営委員会としてどこまで受け止めるか。検討しても実施していないことが多い。

指定管理者を入れれば変わるかもしれない。アンケートをして、明らかになった課題が10年後に解決していないといけないと思う。

○青木委員

座談会でも出席者は60代という方が多かった。10年後は70歳になっている。新規就農者に、新しいビジョンで農業をやる人に、お話ししていただいたほうがよいと思う。また、今後の農業を背負っていく人が、やりやすいようにしていければと思う。

○中垣副会長

直売所で売るのは、野菜だけでなくいろいろ選択肢があるから、野菜も売れるということだと思う。いいものが集まれば、悪いものを寄せなくなるので、場合によっては仕入れ品を増やしてもいいと思う。

○細渕委員

大きいものと小さいものがあつた時、小さいものがなくなっていくというのが現状だと思う。大型店とかに出荷できる農家は残っていく。他に所得があるから売れても売れなくてもOK、しかしやるからには売れるものをつくりたい。小さい農家は半分くらいに減ってしまうのではないか。兼業農家であればOKという状態。若い人が入ってきて、やっていけるような環境づくりが必要だと思う。

○上野会長

農家の所得ということだと思う。都市農業は、資産収入が大きい。農業収入は1～2割くらいという。農業だけではやっていけない。資産があつたり、サラリーマンでそこから収入があれば農業を維持できる。瑞穂町で農業だけで食べている農家は20軒を切っているのではないか。遊休農地を減らそうと努力しているが、毎年15町歩くらいの遊休農地がある。地域を活性化していかないと地域がつぶれていくので、いろいろな手立てが必要である。今が分岐点にあるという危

機感がある。

(事務局)

行政としてこれからの農業振興の施策をお示しするものだが、行政が一方的に示してもいけない。農園を新聞、テレビに来てもらうためPRしようといっても人が大勢押しかけてきても家族経営のため対応に困るという本音も聞く、行政ばかりが一生懸命でもうまくいかないということがあった。理想ばかりでも誰がやるのかという話になる。シクラメン祭りをやったらという話があったときも、シーズンは直売のため、自分のほうで手いっぱいでも祭りができる状態ではない、ということもあった。

これからも、担当のほうから皆様に意見をお聞きすることがある。直売所も土日の9時は混んでいるが、午後や平日も駐車場は足りていないのか。現状で会員が持ってくる野菜を並びきれないほど狭いか。広い直売所をつくってもスカスカではいけない。補充のため千葉県産、栃木県産、群馬県産ばかりを並べてよいかなどとも考えてしまう。いろいろと皆様のお考えなどのお話をお聞かせいただきたい。

(2) その他

(事務局)

計画案の取りまとめに向けて、個別にお話をお伺いしたいと思うので、その時はよろしく願いいたします。

以上